夕刊 磐城新聞 八月二十六日發行 (日曜祭日翌日休刊)

超高速度の小說渉獵 (三)

赤井嶽男輯錄

『謎の踊子』 杉橋一郎作

『秘密』—秘密結社を檢擧して、その辣腕を謳はれた青年檢事は、戀人の妹の龍子に一時も早く會はうと歸京の途中、突如として行方不明になつた。妹の龍子には雪岡といふ戀人があつた。雪岡と龍子は協力して兄の行方を尋ねるうち計らずも兄の失踪の陰に、妖艶な踊子が潜んでゐることを知つた。しかも、戀人雪岡はその踊子の美に溺れやうとさへした、だが、謎の踊子は更に奇怪にも龍子を扶けて捕はれた青年檢事を救はふとするのである。謎は謎を生み、舞臺は東京を中心に青森、京都、大阪、高松、大分、松江と背景の變轉と共に事件はます／＼複雜して行く……。

作者杉橋一郎は、佛文學の本邦への紹介者として有名な某文士の變名である。その筆致の艶麗さと、物語がスピードとサスペンスに満ちてゐる事のみにても、第一級の本格探偵小說として推賞されるに充分である。

その一齣

龍子は既に出發に先立つて、自分の意志と計畫とを細かに兩親へ宛てて書き遺つて置いた。雪岡にも自分の旅行のことを電話でなりと知らせて置かうかと思つたが、自分の旅行の目的には、例の舞姫が連關して居るので、寧ろ默つて出發する方が賢明だと考へて、それは中止して仕舞つた、彼女はただ自分が重用を帶びて出發したといふ事を、後で分るやうに、彼れの俱樂部へ宛てて、手紙を出して置いたのであつた。

その夜大阪に着くと、彼女は直ぐに天保山から、高松行きの汽船に乘り込んだ。海は荒れて居た。彼女は幸ひに船には醉はなかつたが、吐氣を催して船員の世話になる人達が可なり多かつた。

彼女は疲勞を覺えたと見えて、いつの間にか深い眠りに落ちた。目が醒めた時は、いつか汽船の音は止んで、高松の港に着いてゐた。船中で朝飯を濟ませた彼女は高松棧橋から、今治へ向ふ汽車に乘つた。(未完)

提灯は
溫泉宿へ
行く人か。

8月27日

△畿內七道に巡察使を置く(天長二)△貝原益軒歿す(正德四)△ヘーゲル生る、獨逸の大哲學者也、その大學の敎授たりし時佛軍境上に迫り砲彈雨飛の裡に在て巍然として其志を動かさず、冥想沈思の工夫を練り著作に從事せり、有名なる『精神顯象論』の完結したるは實に此時にありと云ふ、著書凡そ二十一卷、其の哲學は誠に能く宇宙の至理を窮盡したり所謂宇宙哲學なり(紀一)

日常吟 (二) 島田忠夫

○千葉にて 續

心にもてる人忘れめや夜の街に思ひに餘る息つきにけり

植木市に蘭を買ひ來て夜ふけたれ街なかにきく梟のこゑ

梟のひとつの聲は歸りゆくわが宿の方に鳴くにしあらし

鈴蟲の店しまひゐる蟲うりに何ぞ親しきもの云ひをする

山 (童謠詩) 原田小太郎

ろんろん音して
溪川
昨日きました
テント村
お山は近い
霧の中
ねむれずに開く
水の音
ぐねつたみちの

時代警語

○妻子を有する人は始めて一人前の人間と云ふべし、從て妻子ある身は指を咬へて坐すべからず……(ベーコン)

○徹底なる妻は純なる夫を拵る……(シエクスピア)

○予の心志、予の勉力、予の自治は予が母の教育によりて得たるものなり(ナポレオン)

一日一禪 (七七〇)

○富貴不淫貧賤樂　男兒至此是豪雄

拈華微笑

四倉町理事者と組合代表の會見蓋し早慶戰以上の見ものだらう
◇
リンデー機鹽屋崎燈臺をサイダ堤位に俯瞰して一路霞ケ浦へ
◇
湯本の上水道にお誂ひ向の堀江。工業
◇
傳貧馬の因緣話馬鹿など一がいに貶し給ふな
◇
お盆は上天氣と決つた踊れ踊れ

講談 元祿名妓傳

小邑井小巴演 (宮野恒彥畫)

一六〇席

扨て花扇は三浦屋へ引上げて參りましたが大賊鳴右衞門を引上さして寺尾彌左衞門へ義理立をするに就てはどうから自分も生害して相果てまする覺悟を極めて居りました、遺書萬端は善兵衞に托してあります、併し其樣子は寺尾彌左衞門も察し、玉吉のたつるも知つて居ります、彌左衞門からおつるに決して殺して呉れるな、能く氣を付ける樣と申しましたが、此のたつるが却つて花扇に同情して居ります、此場合花扇は生ては居られない、死なゝくば女が立たぬ無理に止めるは飛んだ罪造りと思つてゐる、どうも大變な付添え人で、こゝで花扇は玉吉に向ひ。花『あゝ死に度い、生きて居ては妾の心が濟まぬが只一ッ氣掛りになつて死んでも死なれぬのは三浦屋の借金、妾が死んだ爲め小西屋へ迷惑が往く時は再び掛けたのれんも外さなくてはならぬそればかりに切角の決心も鈍ると云ふもの能う察して與んなまし』と泣いての話し　玉『それは太夫心配はいりませぬ、萬に一ッ然う云うことがあれば、私の身を賣つて必ずとも小西屋を救ひます、幸ひ妾は借金は無し、年一杯勤め奉行をしたら太夫の身の代金に代ることが出來るかも知れません、そんな苦勞はいりません』と請合ふ、愈々自殺の手助けとなつた、御當今の法律では差向き監獄物だが……花扇は玉吉の手を取つて其志を喜び、跡の事も萬れとなく頼んで其夜のうちに立派に自害して相果てました、寺尾彌左衞門は此の知らせを受け　彌『仕舞ッた、是れは拙者がお房の命を貰つた樣なものだ』と驚きました、善兵衞の托されたフクサの中には父母へ宛た遺書と彌左衞門に宛てた遺書とがありましたが、其遺書には『て前が阿なたと夫婦の約束をし、それに背いて家出をしましたが、其時から後々は手前の命は阿方に上げる、命をもつて不始末のお詫がしたいと屹と思案をして居りました、今度のことは其の初一念を果したものとしてよく父母にも觀念させ必ずとも嘆いて下さるな』と云ふことも認めてあります、昔は武士に無禮をすれば、無禮打になつても毛頭苦情が言ひなかつたもの、お房が彌左衞門との約束に背いたのは此上もない無禮、逐へば殺さるると極めて居たのが、格別殺されもせず却つて恩義を受けたのだから、一ッは鳴右衞門に對する情にもほだされたのだが、一ッには彌左衞門への心からの詫にが死んだのでございます、六左衞門夫婦並に善兵衞、彌左衞門夫婦も共に吉原へ駈け付けたが、覺悟の自殺で最うどうすることも出來ません、三浦屋夫婦も切角の金箱を失つて歎いて居る時に藝者の玉吉が　玉『扨て皆樣にお願ひがございます花扇太夫が變死となりましては、三浦屋の迷惑にもなり又太夫の志にも叶はぬでございませう、死ぬに就ての相手は誰あらう世に恐ろしき海賊の張本、人の口端にかゝる樣では太夫にもきの毒、就きましては是れは只の病死と云ふことにして預きたうございます、夫が叶ひますれば手前は太夫の身代りに遊女となつて年一杯稼いで三浦屋へは損毛を掛けぬことに致します、太夫もお金のことを苦にして夫となく話したこともありともあるのですから』と言ふ、三浦屋夫婦は喜んで一切萬事引きうけ、花扇は病死として葬送を營み、玉吉が日ならず二代目花扇となつて居を張ることになり、是れは年期が明けた後飾りをおろし初代花扇の墓守りとなつて相果てましたが、何が扨て二代とも浮き世を棄て色餓鬼濟度に身をゆだねました事故、客の受けは頗る好く常に全盛を極めてお職を張り通したと申します、意外の長講でございましたが此のお話しは是れにて終りと致します……。

ラヂオ

…廿七日[木曜]… 仙臺JOHK

△前六、〇〇A ラヂオ操體
△六、三〇A 夏期英語講座(中等科) 增田綱
△九、〇〇A 氣象通報
△九、〇〇 料理獻立 一、バルビユー・ルイズ・ケーブ 二、天津桃ポンチ 菊地貞子 日用品値段
△一〇、三〇A 夏期講習(洋服補綴) 高木美代子
△正午 A 時報
△後〇、〇五 琵琶(臺灣入) 林龍山月
△〇、四〇A ニユース 氣象通報 告知事項
△二、〇〇A 健康講座(恐るべき性病) 醫學博士星信一郎
△三、四〇A ニユース
△五、四五 今晩の番組豫告
△六、〇〇A (子供の時間) 童曲と長唄 長唄(五條橋) 鈴木秀子 (新童曲) 池村阿加代
△六、三〇A 趣味の科學知識(精神の遺傳と優生學) 醫學博士永井潜
△七、〇〇A ニユース 氣象通報 告知事項 番組豫告 生繭相場
△七、三〇 川柳漫談(行水を見る) 青森小林不浪人
△八、〇〇A 淸元(吾妻櫻衞袖土産…士佐絹)上
△八、三〇 獨唱と四重奏 獨唱…四家文子 一、メツツオソプラノ獨唱 二、管絃樂四重奏 三、メツツオソプラノ獨唱 四、絃樂四重奏
△九、〇〇B 室內樂 モギレフスキー・トリオ
△九、四〇A 時報 ニユース 氣象通報 番組豫告 告知事項 生繭相場

廣告

芳醇無比 白馬の雪 釀 松本德一吟 平電話二八五

平町新川町 木村病院 電話一六四番

殘暑御伺 御菓子の御用命は (是非) 平田町 泉屋支店 藤田女學校隣 電五一〇呼出

平町田町 高久病院 (電話五一三番)
醫學士 高久忠　新潟醫學士 赤羽淸　藥劑士 佐竹菊雄
內科 小兒科 外科 花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

殘暑御伺
公園の綠風を窓に受けて 秘める心のメロディに 麗人達が御揃で 來ませ來ませご皆樣を待つ
皆樣の樂堂 歡の殿 岡ケ松カフエー 『女給さん募集』

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸虫病 專門 內科部
梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 專門 外科部
松村胃腸性病科醫院 (平町南町電話一〇七番)

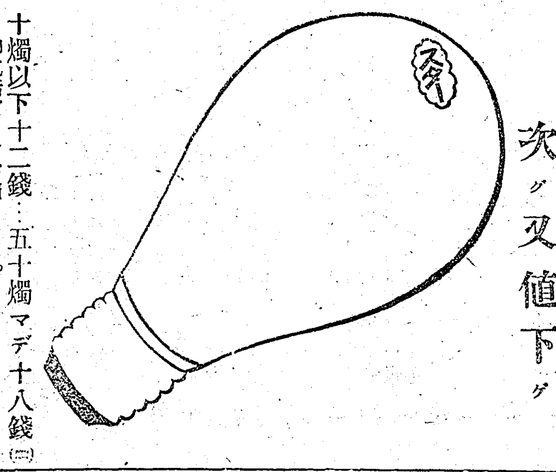
盆納涼興行此の名畫で此の破格料金……
『舊』十四日 十五日 十六日 十七日 晝夜四日間 破格料金 二十錢
日活傑作時代劇の雄 山本禮三郎・山岡滿智子…… 俠骨 忠治の正体 全 赤城を落ちて信州路に秋風落寞世に語られざりし鬼石の桐太郎が血と涙の悲しくも美はしき譚り
NK大作現代映畫 ニッポン三部曲の完…… 日本孃 ミス・ニッポン 全 入江たか子・山本嘉一・夏川澄子 快適聰明スマートにして颯爽たる彼女をミスニッポンと呼ぶ然し其の戀愛觀は實に非現代的である。
NKCK嵯峨野大傑作 原作……モルナアル 飜案、監督……伊丹萬作 戲曲 金的力太郎 全 片岡千惠藏・林誠之助 衣笠淳子・佐久間妙子 其他 云ふ迄もなく獨特の凉味の內に涙一パイ
八月二十七日替り 平館

生花教授 家元 龍生派池坊 生花、盛花、投入自然 營業では御座いませんから趣味で御相手致し度うございます 平町仲町三 天水庵華道敎授 岡田華悅

開業 耳鼻、咽喉科、氣管、食道科、專門 平町南町 (元眞木辯護士跡) 增田耳鼻咽喉科醫院 (入院隨意)

貸切は●●● 親しみあるサービスを以つて知られたる! 尼子タクシーへ 電六四〇番 主任 澤正路

ガス入電球ノ値下ゲニ次グ又値下ゲ
十燭以下十二錢…五十燭マデ十八錢 御電話ガアレバ屆ケマス。
平三 大谷時計病院 眼鏡科 電話十九番



破天荒廉賣 記念新坑着炭…… 磐城炭界優良塊炭 正味拾貫匁入…一俵…金貳拾五錢 一俵より配達します
品質良ク 火力强ク 値段安ク 量目正シク
東京瓦斯コークス販賣 水野石炭商店 平郵便局通り 電話二九九番

四倉築港を支配する 魚市場爭奪惡化せん
飽迄既得權固守の組合が あす町理事者と會見折衝

組合の維持存立上極めて重要な立場に置かれてある魚市場の經營が理不盡な漁港修築の犠牲に供せられ擧げて町の手に奪取せられんず形勢になつて來たのに驚いた四倉漁業組合では昨報の如く昨二十五日午後から組合樓上に於て役員會を開催愼重協議の結果從來永い間組合の事業として平穩且つ公然に經營し來つた魚市場の所謂既得權を假令築港費半額負擔の爲止むを得ざる事情ありとするも遽然として町の手に移すが如きはさらでだに經濟的に行き詰つてゐる組合を自滅に導くものであつて斷然之れを認容する事が出來ないと云ふ理由の下に飽く迄組合經營の既得權を固守する事に決定明二十七日を期し町理事者と會見する事になつたので築港の前途に對する雲行きは之れによつて大体見當がつくものと觀察される

小名濱上空（午後一時二十二分） リンデー機通過
紅翼を新秋の天高く輝かし 南方遥けく機影を沒す

成功に輝くリンデー大佐とアン夫人を乘せたリンデー機は昨二十五日吉田技師によつて發動機鐵カバー銑止めの修理を受け今二十六日午前八時二十分根室を出發一路恙無く午後零時五十二分原釜海岸上空に紅翼を見せ同一時二十二分鹽屋崎燈臺沖合より小名濱上空を快翔し南方遥かに機影を沒した

愈々來月一日頃 湯本上水道起工
入山で依託を受け 堀江工業が請負ふ

湯本町では一昨二十四日夜上水道委員會を開催協議の結果水路隧道、濾過池、配水池等鐵管埋設を除く一切の工事は凡ての意味に於て同町と密接不離の特別關係を有する入山炭礦に依託し愈々起工する事に決したので入山では更に堀江工業をして請負はしむる事になり昨二十五日之れが手續きを了したが堀江工業では最新式の確實な工事方法により極力竣功を急ぐ方針であると云ふから永年の懸案たる湯本町の上水道は案外急速に實現さるゝものと觀測さる

お天氣は大丈夫 申し分無いお盆
小名濱測候所の觀測

お盆を控へての降りは一昨二十四日以來客足を半分以上奪はれた市内各商店は勿論夙くも花笠やカヅラや附け髷などを買ひ込んだ踊り子などをして少からず氣を揉ませたが今二十六日の午前中から大体恢復の域に入り一般がホツとした形ちである小名濱測候所の觀測を問ひ合せると『靑くなります。盆中は大丈夫です』との前提の下に次の如き觀測を發表した

一兩日來の天候は北海道の東方に在つた高氣壓の影響を受けて一寸梅雨氣分となつたのであつたが其れが漸次勢を失ひつつ南東方面 移動したので雨模樣が撤れたわけだが高氣壓の南下と共に颪も南に變る結果氣溫も上昇し先づ以て申し分の無いお盆を過ごす事が出來る見込である云々

平第一校野球選手 快技を揮ふ
本鄕根津軍を破り 大津を屠らんとして 惜くもドロンゲームとなる

平第一校野球選手は一昨二十四日茨城縣大津小學校庭に於て東京より遠征の本鄕區根津小學校高等科と對戰し八對七で之れを破り更に大津小學校高等科と戰ひ四對三で斷然優勢を示し四回裏まで進んだ處を折柄の驟雨で惜くもドロンゲームとなり昨二十五日夕刻歸校した

從兄を索ねあぐむ 天涯孤獨の啞娘
平町役場から鄕里へ照會中

宮城縣登米郡錦織村大字錦織生れの松原勝子（十九）と云ふ聾啞の娘は大正十二年の大震火災の折東京で兩親及四人の兄弟と死に別れ他に身寄りとて無い爲め只一人の從兄に當る松原忠市（三六）を尋ねる爲遠く北海道方面を流れ歩るき大体石城地方の炭礦に居る事が判つたので先頃來好間地方を搜した結果藤原に居ると云ふので同所へ行つた處廢山の事とて退去先が判らず今二十六日平町に辿りつき町役場の手で原籍地へ照會中

候補者のみかは 忙しい
郵便局、役町場 警察署高等係
◇地方議會選擧迫る―

地方議會の選擧は逐日接近しつつあるが郡下有權者は昨年九月現在の同年十二月確定登錄者三萬八千七百二十二名内平町が四千百二名であるが平郵便局では各候補の事務所が悉く同町内に設けられ其處より發せらるる挨拶狀、推薦狀の取扱ひで甚しき事務の輻湊を見越し選擧關係郵便物配達に際し萬遺漏無きを期する爲有權者の住所實數其他につき過般來詳細調査を續けてゐると同時に平町役場も並に平署特高係に於ても鋭意調査をなしつつあるが轉居死亡その他の理由に依り郡内に於て五六百名の失格者が出るものと觀られてゐる

投書歡迎 寄

お盆中の心得

◇踊りでゴッタ返す舊盆三晩の平町で自動車の運轉區域が制限される事は何より嬉しい、お蔭でセイセと年に一度の盆氣分が味へると云ふもんだ

◇そこで今度は我々商店同志が互に公德を重んじ合つて混雜の期間中丈け店頭の大道進出を遠慮し度いと思ふが如何でお座る

◇平常一間も大道へ陳列臺をツン出して大目に見て貰つてゐ乍ら見物人を呑み切れぬ踊りの晩に迄洒々としてそれをやらかす事は餘りと云へば勝手過ぎはしないか

◇其筋のお咎めを受けて始めて泡を食つて引つ込めるなどは少くとも平商人の恥辱だ、此事は一つお互同志の心掛けによつて勵行したいと思ふ（二丁目未來の紳商投）

サク〳〵する事

◇多數町民の輿論に耳を藉さず矢が鐵砲でも即刻築港に着手せねばならぬと云ふ四倉町理事者の主張の裏面には何事か斯くせねばならぬ理由があるからではあるまいか

◇假にそう云ふ理由を造り上げて了つたならば今更姑息な手段で一時の急場を繕ふより一切合切町民に眞相を打撒けて實は恁うだからとサク〳〵相談を持ち掛けたらどう云ふものか

◇同じ町民だ。やつて了つた事を今更兎や角云つた處でし方が無からうではないか、此際お互サク〳〵する事が延期即行何れを問はず必要な事だと思ふ（大浦人造投）

呪はしい折紙に 成佛出來ぬ栗毛
永戸の傳貧馬哀話

どうも近頃元氣が無い樣に見受けては居たものの何より大切なその栗毛が今はやりの怖るべき傳染病の貧血病であると宣告された時一家のものは飛上らんばかりに驚いた

×

呪はしい折紙をつけられたその栗毛は漸く働き盛りにはいる四歳の壽命を忽焉として奪はれて了つた、一家の愛惜は容易に盡きなかつた。最後に牽き出される時の重々しい足どりとそこへ繋がれてから凝乎と涙ぐんだ姿とは忘れられない幻影として永く飼主の眼前に彷彿した

某氏は其後其村へ出張して川へ墜ちたり立會つた某が發熱したり、滿更錯覺と許り片附けられぬ事が次ぎ次ぎと起つた

×

傳貧馬が撲殺されて月餘憑うした風説が永戸界隈に傳へられ農村らしい話題として頻りに獵奇心を唆つてゐる

人命救助表彰

上遠野村長瀨留之助（三三）は去る十七日午前十一時頃同村地內鮫川で溺死せんとした鈴木和子（四）を救助した廉により二十四日川崎知事から金一封を添へて表彰された

□□□□□ 不心得な軍曹

平町禰宜町元品川白煉瓦工場跡長屋居住山形縣東置賜郡新庄町生れ賭博前科三犯黑沼健之助（五五）は去る二月中川前村佐藤某方で丁半賭博開帳中平署員に踏み込まれ風を喰らつて逃走同署のお尋ね者となつてゐたが一昨二十四日自宅に立廻つた處を逮捕され目下取調中だが同人は日露戰役に出征し功七級を有する陸軍々曹であると

□□□□□ 丁稚時計を盜む

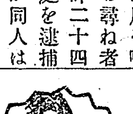
澤渡村大字下市萱生れ平町搔槌小路一色川材木店雇人鈴木正治（一六）假名は去る十四日午後二時頃同町一六に居住する主家の製材工場職工湯澤常次郎方留守宅に忍び入り柱にかけてあつたクローム側腕時計價格七圓を竊取したこと此程平署に探知され目下同署で取調中

□□□□□ 飯野校同窓會

飯野小學校同窓會は三十日午前九時から同校々堂で開催すると

盂蘭盆會
『菩提心集』より

目蓮尊者の始めて得道の聖となつて、うせ去りにし母の在り處を求むるに餓鬼の中に生れて、飢せまり、骨皮のかぎりにて居たるを見て、鉢に食ひ物を盛つて食せ給ふ。かれ取りて食はんとする時に左の手を打おほひて右の手して飯をつかみて口によする程に、火になりてもえ上りぬ、目蓮尊者悲しみて佛に申し給ひければ、佛のたまふよう、七月十五日は、佛歡喜し給ひ、僧自恣する日なり其日百味飲食の物を鉢に盛りて衆僧に供養せば母の苦みを救ひてんと仰せられける、日蓮そのままにして母の苦患を濟ひたり、其かたぎにて、此の世にもするなり、七月の望の日は、佛の喜び給ふ日なり、其故はもろ〳〵の僧、安居のつとめを四月十五日に始めて九十日の程歩かせ、おの〳〵學問行ひし戒行つつがなくしてゐたり（下略）



艷罪黑白

◇酸いも甘いも嚼みわけてゐる花柳界の苦勞人として誰知らぬものない△×家のたつかさん。抱え妓の數丈け最新式の月經帶を買ひ込んで大は大なりに小は小なりに一人々々支給したもんだ◇新參の一人が『阿母さんアタシ持つてるのよう』と辭退に及んだ處が言下に『人なかへ出て踊るんだ。お古なんか使つて間違ひでもあつて見な』とキメつけられ。蚊の啼く樣な聲で！『そう』は可愛そうだつたと梅の湯での內しよ話◇こんな調子で盆踊りの前景氣は盛んなものだ

平町新風景
冷汗の迎へ盆
墓前に額づく瞬間を 胎動に驚く赤い信女

『盂蘭盆は梵語で、漢譯して倒懸救器、和譯すれば死者倒懸の苦を救ふと云ふ意味ぢや。即ち百味を盆に盛つて三尊に供し以て倒懸の苦に惱んでゐる餓鬼道の苦を救ふ爲の法會が即ち盂蘭盆ぢや。その由來は『菩提心集』に明かなんぢやが……』。茲でオホンと來たんです。

0

『――要するに盂蘭盆は目蓮が亡き母の追善供養を營んだ事に準ふて我が家の祖先を祀り近親の亡靈を慰藉し、併せて故老を尊重し、孝行を奬むるの佛的行事であると解して差支ない。我國に始めて盂蘭盆會を營んだのは聖武天皇の天平五年の七月であると云ふ事ぢや又齊明天皇三年七月であるとの説も行はれてゐる。何れにしても古くから行はれたと云ふ事に疑ひは無い―』茲で再た牡雞がトキをつくる時の樣な頸つきをしてオホンと來たもんです。

0

風景子が今早曉墓參歸りのキンダヴユーに其處の老僧をして語らしめたこの盂蘭盆の斯くも有り難い由來を心のメモに刻み乍ら歸つて來ると石階の眞ん中頃でバッタリ過つたのが顔見知りの間である去年のお盆過ぎに良人を喪くした某未亡人なんです。

0

さして急でもない石段を上るのにドッコイショと大儀そうな掛聲をし乍ら一足毎に肩で息をする處は今や一點の疑ひを插む餘地ない赤い信女の而も最末期にあるんだから大抵吃驚しつちやつたんです。指折り數へるとアノ時惆悵たる伜上の白無垢姿に人をして思はず面をそむけしめてから間も無くその聖靈とやらに感じたらしい計算になるんです

0

香華を手向けて、松を焚いて墓前に跪座禮拜してハンカチで一寸目のあたりを拭いた瞬間ピクリなんて胎動を感ずる开麼所謂赤い信女も今日の迎へ盆に一人や二人は恐らくあるもんでせう。廣い平なんです。

……豫告……

次回講談 **女長兵衛** 斯波南叟演（魚崎潮沛畫）

女長兵衛は會津の家老の落胤だつたのが仇で環境の迫害は弱い女を殺そうとする、止むに止まれず劍と俠とに依つて其の身を守る事となり、稍名が知れて來ると、更に新しい敵が多く出來た、旗本の横紙破り白柄組の水野十郎左衛門等を始めとし、太い毛臑に尺八の威勢を見せる町奴、堂々町道場を張る一流の師範など、其相手は容易ならざるものゝみだが、何時も第一線に立ち電光石火の働きを見せる、鼠山には恩師の仇の大敵を倒し、駒形の渡しには付覘ふ劍客を水葬にし、旗本屋敷に斬り死の活劇を演ずる等等、等の變化百出して、毎回爽快味を横溢させる、可憐な女の男髷は讀者歡呼狂熱の中心たること疑ひなし。

（愈々明日より）　（百八十回）

廣告

めそ丼 金參拾錢
大衆向うな丼 金參拾五錢
特上丼 金五拾錢
蒲燒（一人前） 金五十錢
右弊店特々の勉强振り御試食の程を御願申上舛
平館前通り 江戸川 うなぎ 食堂 電話六七七番

平町田町 安齋外科醫院 電四七五番

内臓外科一般 外科花柳病科（入院隨意）
平町六丁目（橋際） 木村外科醫院 電話三〇九

東北ヒヨケの元祖
ヒヨケ。テント カーテン。切ヌキ 旗。シート。雨着
近頃弊店名儀をたくみに利用し受注する者有り尚紺屋町ヒヨケ屋正木森之助氏の如きは弊店と關係あるが如き事を云ひ振らす由に候も同氏とは何等關係無く又武藤定三氏は過般解雇したる者に付右御了承の上尚此後御注文の際は弊店マークに御注意彼下度御願申上度此段謹告候也
平町六丁目大通り 敷島テント商店

内科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋疾 皮膚病 市原三三男
平町田町本通 市原醫院（入院隨意） 電話一一四番

セダン揃ひで！ 貸切專門の！ 昭和タクシー 三四三番（サシミ）

お醬油は……ヤマフル
味噌醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
釀造 山崎合名會社 福島縣平町 電話（營業部一〇番 本店二七番）

◎レコード破りの石炭大廉賣！
（磐城炭礦二等炭）正味十貫目一俵 金卅錢也
◆品ガ良ク『値ハ安ク』ヲモットートスル當店ハ此度超破格ノ格安石炭ヲ販賣開始致シマス
◆値ガ安クトモ品ハ惡クハアリマセン
◎配達ハ一俵ヨリ致シマス
御注文は― 電話二三七番
平驛前 阿部石炭商店